

～ Serving the Community and Supporting the Y.M.C.A since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ： *Funding global movement*

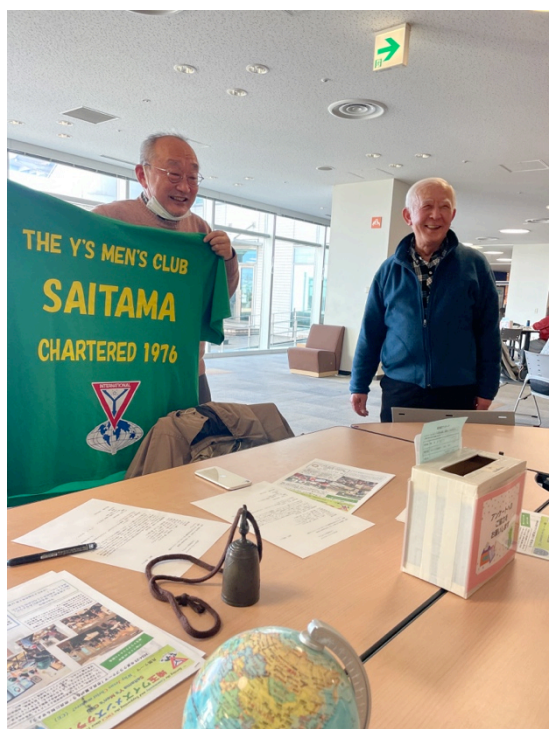
2025
1月



2024-25 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

埼玉クラブの新しいバナー
お披露目

今年の正月はインフル正月。大勢罹った。編集士もその一人。トランプ新体制の米国は不気味な未知の世界に向かいつつある。イスラエルとガザの停戦合意が定着することを祈る。Ys 活動は年度後半がスタート。当クラブは爽やかに新バナーでスタート。引き続き地域の市民とのつながりを大切にしたい。会長から多少長い新年の抱負的投稿を掲載。



[写真メモ] 昨春クラブバナーが紛失したが、漸く新バナーがお目見え。詳しくは衣笠メンの一文で。(会長、マスクはずしたら?) 右3枚は東山荘「年末年始パーティ」に参加した浅羽会長提供。東山湖から望む富士は御殿場市内を縦横に走る電線に景観が邪魔されない穴場とか。他クラブのメンと記念例会。能登半島地震1年。輪島塗販促で支援をアピールする夫妻にエール。

今月の聖句

「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

(ヨハネの福音書7章38節)

2月「うぐいす」例会

日時：2月17日(月) 10:00～12:00
会場：市民活動サポセン(浦和駅前パルコ9階)
プログラム：「ジェンダーを学ぶ(その10)」

2月夜談会

日時：2月10日(月) 午後6時～8時
会場：サイゼリア(浦和駅東口)
▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場(覗いてください)

◆◆◆ エッセイズ ◆◆◆

◆ 「つなぐ人になりたい」

浅羽 俊一郎



先日人前で日頃考えていることを証しするハメになった。ワイズ活動や地域活動に直接関係すると思うので、敢えてブリテンで共有し、皆さんから忌憚ない意見と批判を仰ぎたい。

「つながり」不在の地域社会

私は今 74 才。ワイズ仲間の後押しで 3 年前にさいたま市で空き家だった実家の 1 階で地域活動を始めた。市民田んぼや日本語ボランティアの活動に参加し、地元とのつながりを広げ、また居場所づくりをしている市民達のサークルで色々と学ばせてもらっている。

一年ほど前に子供から大人まで、障害のある人も外国人も、気楽に参加できるデモを提案したところ、「なぜ?」「興味ない」「デモって参加しにくい」と反発が返ってきた。でも頑張ると「ウォーキング」に落ち着き、昨年 11 月の日曜の午後このグループとその友人やワイズ・YMCA 仲間て別所沼公園を一周し「ふるさと」を歌って解散。喜んでくれた。

同じ方向を向いてのんびり歩くうちに気持ちがあほぐれ、他人同士でもつながり、話しも弾む。

知り合いの大学生によると、今若者は同級生でも当たり障りのないことしか話さない。毎日顔を合わせていても、悩みや疑問を共有しない。おそらく一人で抱え込んでいるのだろう。若者にとってつながり不在・つながり不要な毎日を送っているとすれば、いずれ社会に出て苦労することになると思う。

「平和」から「つながる」へ

ところで前々から「平和」という言葉に違和感があつた。「戦争」と違ってイメージしにくい。それなら、と「(多文化) 共生」に置き換えてみた。でも共生よりも分断が進む今日の現状に共生も不適合。辿り着いたのが「つながり」だった。人と人が信頼関係を培って、安心していられる状態こそイメージしやすい「(日々の) 平和」だと気づいた。逆に人間関係も、地域社会も、国家間も対立や分断は抗争へと発展しうる。一見平和な今の日本社会だが、果たしてつながりがあるからなのか。むしろ津々浦々治安が維持されているからではないのか。

YMCA の平和活動は、参加者が体験を共有し、課題と一緒に取り組む中でつながっていくところにそのユニークさがある様に思う。彼らが「つなが

た」の感動で終わらず、さらに「つなぐ」人のチームになってほしい。

「つなぐ」若者を育てる

こう考えてくると、つながりを体験し、つなぐ力を養うことは若者が責任感のある市民に成長するうえで大切なプロセスではないだろうか。社会に出た若者がつながることより自己保身を優先し、人間関係を打算と要領で営むか、無関心を決め込む。そんなバラバラの個人の烏合社会に平和の種が育つはずがない。

上記の観点から改めてワイズのユース事業を問い直したい。即ち知らない若者同士が一緒に行動する中でつながり、次いでつなぐ意志と勇気と工夫を身につけるような仕掛けを活動の中に組み込めないだろうか。その前に先ずメン自ら若者に誠意をもって歩み寄ることから始めたい。その一方メンが「奢ってくれる」お人好しのクラブだと思われては逆効果だ。なお私が若者というとき、YMCA の若手職員も当然念頭に入れている。

最後に「つなぐ人」を今年の私の生活の指針にしたいと考えており、そのように神に祈っている。◆

◆ 「バナーの感動」

衣笠輝夫

埼玉クラブのバナーが新しく生まれ変わった。新しい発想のもと、シンプルでわかりやすく、かつ大胆なTシャツ型デザインとなった。新型バナー制作となったきっかけは、従来のバナーの紛失だった。浅羽会長よりこの機会に発想を変えて制作しようとなり、実現した。クラブ会員は気分一新となり新たなスタートとなった。◆



* 昨年 3 月末 浦和 YMCA が閉館すると、示し合わせたようにバナーが消えた。クラブの予算など勘案して T シャツ型に挑戦。製作して下さった原俊彦メン(富士五湖クラブ)に感謝。担当の衣笠メン、お疲れさま! 写真右が新バナー。区大会でのデビューが怖い。(編集士)

◆ 1月「夜談会」

今月 13 日（成人の日）の晩、浦和駅東口「サイゼリア」にて開催。今回は衣笠メン、浅羽メンが関わっている見沼の市民田んぼ活動の有力な若いメンバーの白鳥勝也さんが参加し、自然保護への熱い思いを語ってくれた。座席が隣同士となった衣笠メンと白鳥氏が昆虫談義で盛り上がったのも面白かった。白鳥氏には川越 YMCA が企画中的の子供向け田んぼ活動に協力してもらいたい。❖



（手前右から時計回り・敬称略）麻生・浅羽・浅香・上松・浅羽恵・新バナー・衣笠・白鳥（初）・大輪

◆ 1月「新春」例会

1月20日朝10時からさいたま市サポセンで今年初の例会を開催。衣笠メンが新バナー完成への経緯を報告。続く今後の予定を話し合った。中でも当クラブの50周年（2026年）について協議。来年秋（2026-27年度）に何かすることにした。案として（1）イベント（衣笠）と（2）50年の写真集（上松）が上がった。今後は衣笠メンを実行委員長に、皆で協力して進めていく。また今後の例会卓話の候補者やクラブ活動用の資金作りについても話し合った。閉会后、衣笠・浅羽で地下の百円均一店で新バナーを支えるための伸縮自在棒を購入。❖



出席：上松・高岡・伊藤・浅羽・バナー・衣笠

◆ 第6期チェンジ・エージェント募集

2025年1月30日ジュネーブ発。2014年以来900人のユース・リーダーを養成してきたYMCAチェンジ・エージェント（Change Agent CA）プログラムが第6期生の募集を開始。5期生100人は昨年10月に研修を終えている。第6期生の応募は3月23日まで。4月までに選出され、直ちに研修が始まることになる。18ヵ月間の研修を通して人間中心の設計（イノベーション）、パートナーシップの構築、運動の構築、変革への影響力に関するモジュール作成などが含まれている。「私たちはこの革新的なプログラムの新たなスタートに興奮しています。優秀な若者を受け入れ、自分たちのコミュニティや、より広い地域でリーダーや変革者になりうる若者にトレーニングを提供しています。私たちはYMCAのビジョン2030（公正・持続可能・公平で包括的な世界を探求する）のサポーターである修了生と緊密に連絡を取り続けてます。現在修了生6人が世界YMCA執行委員会の委員を務めています」と世界YMCAのカルロス・サンヴィー総主事は語る。

- * 以上、世界YMCA同盟ホームページより抜粋。
- * Change Agent 制度はエルトヴィック前同盟総主事時代に「眠れる巨人」YMCAを叩き起こすには若者を主役にすべきだ、と始めたプログラムの一つ。
- * 日本YMCA同盟も過去に世界的視野・企画力・実行力などを備えた若者を育成する事業「地球市民育成プログラム（YGCP）」をアジア諸国のYMCAと協力して実施した実績があることを覚えておきたい。

Apply for Change Agents 6.0!



◆ 川越Yの子ども達、市民田んぼにトライ

2月1日午前中、川越YMCAの男の子達が職員に連れられて見沼の市民田んぼにやってきました。活動の責任者、藤原梯子さんとは訪問の打ち合わせはしたが、今後の具体的な活動（作業）については年間行程、子どもの力量、参加頻度などを考えながら、一緒に計画を立てていくことになるのだろう。レクリエーション的な野外活動と異なり、農作業は真剣な仕事。それでも都会を抜け出し、見沼田んぼの澄ん

だ空気を満喫しながら、大人に混じって一汗かく。子どもだけでなく、Yスタッフにとってもよい経験になることを期待したい。さいたま市内の活動であり、埼玉ワイズとしても何か応援してあげたい。



* 白鳥氏の協力で軽作業。一汗かいて里山へ。浅羽が里山から写す。



📱 仲間からの便り

◆ 新春の俳句 堀和光二郎メン (俳号 愚道)

「初」がつくと正月の季語になります。

初富士の遠くにありて輝きぬ

毎朝シャッターを上げると小寒い風とともに朝陽と遠くに富士山がくっきりと見えます。



初ガラス泣き声があがあ独り言

今年初めてカラスを見ました。ひたすら餌を探しながら独り言のように鳴きながら

後輩の箱根駅伝親心

箱根駅伝に後輩たちが参加しました。ただの駅伝ファンだけではなく、もう親のような興奮で選手たちを観てしまうようになりました。因みに箱根駅伝は季語ではないんですよ。

◆ 水無瀬隆造メン

2025年には団塊の世代800万人が一斉に75歳以上になるという謂わゆる「2025年問題」を見越して行政の介護サービスのハードルが高くなるとは聞いていたが、この1月早速それを経験しました。今まで訪問介護に来てくれていた介護士が来なくなってしまった。それでも毎日リハビリを続けており、今は毎日4,000歩は歩いています。

◆ 高岡敏夫メン

私の趣味は社交ダンスと長唄。ダンスはラテンからワルツ、フォックストロットまで。26歳で始めたが、現役時代は仕事優先。何年も休むこと度々。ここ15年間は週3回練習している。長唄は36年続けてきた。今は「綱館」に取り組んでいます。自宅で練習し、稽古が月2回。両方とも発表会は例年5月。とにかく練習が楽しい。この2つと、市民田んぼの作業が私の健康の秘訣になっていると思います。

◆ 大輪正史さん (夜談会常連)



今年も色々やります。まずは東京YMCAのかつてのリーダーやメンバーのつながりを広げていきます。彼らの多くは今も色々な形で社会参加している連中なんです。次に中村哲医師の活動から学ぶDVD上映会を4月に地元でします。30名集めたい

です。近所の犬トモとの交流から面白い活動が生まれつつあります。我が家の愛犬はゴールデンレトリバーってやつ。えっ、知らない？ とにかく元気でやっています。

*上記3名のお便りは電話で語ってくれたことを適度にまとめたもの。原稿依頼は無視されるのに、電話だと話がはずむが5分ほどで打ち切らせてもらう。(編集士)

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (01/13)	8	3	5
月例会 (01/20)	5	5	0

[編集始末記] 1月ブリテンを2月に発行することまずお詫びします。2月号は月内に出したい。「つなぐ人」の言葉でメンバーから今の日本YMCAの標語である「見つかる/つながる/良くなっていく」との関連を問われた。YMCAが活動中心なら「つながる」で、人中心なら「つなぐ」なのかと考えてみた。チェンジ・エージェントこそ自らつなぐ若者であってほしいと思う。



ワイズメンズクラブ 紹介

ワイズメンズクラブ国際協会 (Y's Men International) は世界的な社会教育団体 YMCA を支える社会人クラブの国際的な繋がり。若者と地域への奉仕と、国内外の交流を進めています。肩書き・性別・政治・宗教・年齢差を問わず、皆が対等。ボランティア活動はしたいけれど、最初の一步が踏み出せないという方、ワイズからスタートしませんか。随時募集しています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動してきて、再来年50周年です。活動は「月例会」(サポセン)と「夜談会」(サイゼリア)とYMCAサポート。(年会費: 40,000円)

* 詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。(090-7426-5553)

* Y's Men International 東日本区の URL は

<https://ys-east.or.jp/#gsc.tab=0>